

2024年3月期 第1四半期 決算説明会における質疑応答

2023年7月28日
NEC ネットズエスアイ株式会社

※今期：2024年3月期、今1Q：2023年4～6月期
前期：2023年3月期、前1Q：2022年4～6月期

質問者A

Q:ネットワークソリューション事業(NWS)の売上総利益率(GP率)が、下がりましたが、これは通信事業者の設備投資が厳しかったことで、想定よりも下振れているということでしょうか。また、この傾向は2Q以降も続くのでしょうか。

A:通信事業者の設備投資については、5月に一段と抑制した事業者もあり、さらに厳しさが増していますが、KDDIやNCC(大手4社以外の通信事業者・ISP)などは2Q以降比較的投資が期待できます。加えて、海洋・宇宙・放送といった社会基盤分野の事業環境が強いため、NWSセグメントとしては通信事業者向けの弱さをカバーできると考えています。

Q:1QにおけるNWSの収益性について、社会基盤分野で収益性が低い案件が多く、セグメントの収益性を下げたとのことですが、2Qにはそのような問題が解決し改善できるという認識でしょうか。

A:NWSの収益性については、下期に向けて改善できると考えていますが、通信事業者向け事業のリソース適性化の効果について、まだ2Qでは顕在化の途上であることや、社会基盤分野の案件も下期に向けて採算の良いものが売上として増えてくる見込みです。従って、2Q時点ではまだ厳しさが残るかもしれませんが、下期には改善できると考えています。

Q:社会・環境ソリューション事業(ESS)において、海外で大型案件を受注したとのことですが、採算性や、過去に起こしたような不採算リスクについてはどう考えていますか。

A:受注した海外大型案件は、サウジアラビアにおけるプラント通信工事の案件です。お客様との良好な関係のもと従来から取り組んでいる領域ですので、採算面、リスク面についての問題は無いと考えています。

質問者B

Q:各セグメントの市場環境や需要の状況はいかがでしょう。

A:DXソリューション事業(DXS)においては、受注が1%増ですが、これは、子会社におけるコロナ関連需要の反動を含んでおり、実態としてはより強く、堅調な状況が継続しています。働き方DXや次世代ネットワーク・セキュリティなどの中期注力領域は約4割増と、今後に向けても順調です。

NWSはキャリア関連事業が厳しいですが、投資の厳しさが続く通信事業者がある一方で、

KDDI や NCC など期待できる通信事業者もあり、ある程度カバーできると考えています。社会基盤分野については 1Q も受注は 4 割増と好調ですし、今後リソース強化の効果も含めて更に加速していけると考えています。

ESS は、大型案件を除いても道路関連の ICT 等で受注が伸びており、全般に堅調な事業環境が続いていると認識しています。

Q: 2Q 以降の GP 率について、DXS や ESS はどう見たら良いでしょうか。

A: DXS については、注力領域が伸びたことで 1Q も改善しており、この傾向を今後も継続していきたいと考えています。

ESS は、増えている受注残が、2Q から大きく売上に貢献してくる見込みで、限界利益を考えると、利益額に加えて、収益性の面でも改善できると考えています。

Q: SG&A を増やしていますが、営業利益で見た時でも、2Q は増益に転じられると考えてよいでしょうか。

A: 売上が加速し、それも受けて GP 率が改善できる見込みです。SG&A については、基幹システムや DXS で増やしていますが、これを吸収して増益には持っていけると考えています。

質問者 C

Q: 受注時採算が改善しているようですが、どのセグメントが改善したのか背景も含めて教えてください。

A: DXS と ESS を中心に全般的に改善している状況です。DXS は、働き方 DX など収益性の高い中計における注力分野が伸びており、ESS についても、受注残の中には GP 率の面ではあまり高くない案件もありますが、最近受注しているものについては採算性が良いものが増えてきております。

Q: 1Q の SG&A 増について、計画対比では増えている状況なのでしょうか、それとも計画通りの進捗でしょうか。

A: SG&A については、計画通りに進捗している状況です。今期は、前年度の本社移転費用が改善する一方で、新基幹システムの導入に関わる費用などが今後 1Q 以上に増える想定となっており、前年よりも SG&A を増やす計画です。

質問者 D

Q: 過去から、1Q 決算の進捗が悪く、株価に少なからず影響している印象です。業界の特性などあるとは思いますが、2Q 以降の営業利益はどのように進捗していくと考えておけばいいのでしょうか。

A: 1Q は売上のボリュームが小さく、固定費や SG&A 増の影響が過度に出やすい四半期になります。一方で、2Q 以降の状況について、SG&A は前年比で増える計画ですが、豊富な受

注残からの売上が本格化することに伴う利益増、また売上増に伴う GP率の改善も期待できますので、十分増益できると考えています。今期営業利益予想は前年比で+12 億円で、1Qは4億円の減益だったので、残り9か月で16億円増が必要になりますが、なるべく早期に実現していきたいと考えています。半導体・部材不足については全体的には解消方向なのですが、まだ電源など不足する部材もあります。4Qには解消すると考えていますが、部材不足により4Qに売上が偏重する可能性もあります。

Q:ESS において大型案件を獲得とありますが、こういった案件でしょうか。

A:国内の案件は機器調達案件です。海外の案件は、サウジアラビアでのプラント通信設備構築関連で、従来から行っているビジネスです。

以上